

「ネットワークだけでなく、ファイアウォール、VPN装置などのインフラ全体を仮想化すると、ハードウェア構成と比べて半分のコストで済むことがわかりました。運用コストも最大で80%は低減できると考えています。VMware NSXを選ばない手はありません」

新日鉄住金ソリューションズ株式会社
小野寺 一浩 氏



新日鉄住金ソリューションズ株式会社
技術本部 生産技術部
SDCセンター
NSSDCグループ
布袋 賢介 氏

カスタマープロフィール

新日鉄住金グループのIT事業会社として、同グループの中核である製鉄事業を40年以上にわたってITで支え、製造・流通・金融・公共といった幅広い分野へシステムとサービスを提供してきた。「技術のNSSOL」とも呼ばれ、先端技術を専門とする研究センターを持ち、高いインテグレーション力やソリューション開発力などを強みとする。昨今は、クラウドサービス「absonne(アブソヌ)」や、仮想デスクトップサービス「M³DaaS(エムキューブダース)@absonne」の提供にも注力している。

インフラ全体のコストを VMware で半分程度に削減

NSSOLでは、ネットワークだけでなく、ファイアウォールやVPN装置などの周辺機器も含めて、総合的な検討を行いました。ファイアウォールやVPNも、開発状況によってはさまざまに設定を変更するケースがあります。これをハードウェアで運用し続けるのは、相応の忍耐が必要です。そもそも仮想化環境を管理するSDCセンターと物理環境の管理部門が分かれていたこともあって、両者の管理業務を明確に分離したいという考えもありました。

大きなポイントとなったのは、コストです。技術本部 生産技術部 SDCセンター NSSDCグループの布袋賢介氏によれば、「総合的に試算してみると、同じような構成と運用をハードウェアで実現するのに比べて、すべてを仮想化したほうが半分程度のコストで済むことがわかったのです。もちろん、物理環境を管理することに比べれば、運用コストはケタ違いに抑えられることは明白でした」とのことです。

もともとNSSDCのインフラは、「VMware vSphere」によって構築されていました。運用管理をネットワークから仮想マシンまで統合し、全体の自動化・最適化を目指すためにも、VMware NSXは最適でした。同社としても新しい試みではありましたが、サーバ仮想化の経験からVMwareのテクノロジーが信頼できるとわかってきたため、布袋氏は「大きな不安はなかった」と述べています。

ハードウェアに依存したSDN製品やオープンソースソフトウェアでは、将来的なリスクが懸念されます。できるだけ容易に利用できるインフラ技術で、長期にわたってサービスを提供していきたいという考えも、VMware NSXを選択した理由の1つです。

想像以上のメリットを享受 NSXでさらなるサービスの進化へ

NSSOLでは、2014年ごろから検討を開始し、

入念な機器選定やPoCを経て、2016年3月に正式なサービスとして新しいインフラをリリースしました。

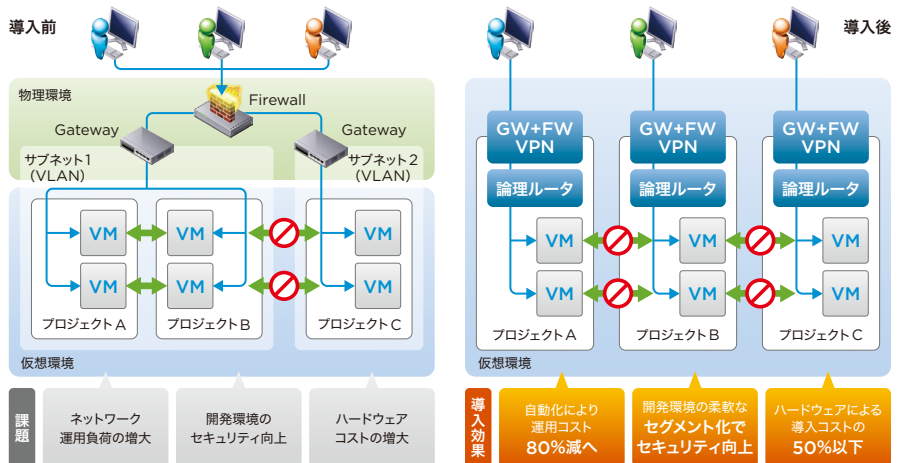
従来は、物理環境の管理部門と連携して手作業で行っていたネットワーク設定の変更を、今ではSDCセンターのスタッフがWeb管理画面から簡単に行うことができます。各開発プロジェクトのネットワークも完全に分離しているため、セキュリティやトラブルのリスクも大幅に軽減されています。

実際にVMware NSXを運用してみて、布袋氏は想定していなかったさまざまなメリットに気づいたそうです。例えば、ある程度の手動操作が必要だと考えていたところ、ほとんどの機能がAPIでコントロールできることに気づきました。また、VPN接続の認証はActive Directoryと連携できるため、別の方法が必要ありません。ファイアウォールのポリシーを一括配信できることも、布袋氏には魅力でした。将来的には、管理の自動化をさらに進めて、開発者が自由にネットワークを設定できる環境をVMware NSXで構築したいと考えています。

最後に小野寺氏は、VUIエムウェアのサポートについて「基本的な質問にも真摯に応じてくれ、コンサルティングに近いサービスを提供してくれました」と高く評価しています。

今後の展望として、VMware NSXはクラウドサービス absonne やDaaSシェア3年連続No.1*を誇る仮想デスクトップサービス M³DaaS@absonne への採用も検討しています。より俊敏で、柔軟性に富み、セキュリティの優れた開発向けクラウド基盤を実現したVMwareのテクノロジーは、新日鉄住金ソリューションズの高度な開発力やソリューション力をこれからも加速していくでしょう。

*：[出典] 富士キメラ総研
「2015 クラウドコンピューティングの現状と将来展望」 2014年度実績値
「2016 クラウドコンピューティングの現状と将来展望」 2015年度見込値、2016年度予測値



図：ネットワーク仮想化によるデータセンターの変革と導入効果

